すみだ食育goodネット

食育の芽

第16号　2020.10 発行
発行：すみだ食育goodネット事務局

すみだ食育goodネット総会開催
理事長は木口氏から佐伯氏へ

goodネットの総会は、例年5月に実施してきましたが、今年度は、新型コロナウイルス感染拡大予防により、開催時間の短縮や感染予防対策を徹底した上で、6月29日に実施されました。総会では昨年度の報告が行われた後、今年度の事業計画、収支予算、新役員の（案）が発表され、その場で承認されました。そして、理事長木口圭子氏の退任に伴い、新理事長の佐伯信郎氏（有限会社亀屋代表取締役）が就任することとなりました。

会場では、手指消毒が徹底されていた

新副理事長、新理事紹介

歯科医師として「地域完結型医療」を目指し、医療と介護、多職種の連携の一助となるよう、食育のつながりを活かして努力していきたいと思います。よろしくお願いします。

新副理事長 大久保 勝久氏
公益社団法人東京都向島歯科医師会 副会長

新理事 平田 慎吾氏
有限会社三善豆腐工房代表

「一丁入魂」心に残る豆腐をモットーに京島で豆腐店を営んでいます。大豆の栽培から豆腐造りまで身近な食の現場とし、食育活動に貢献したいと思いますのでよろしくお願いします。

墨田区福祉保健部保健衛生担当部長
（墨田区保健所長）あいさつ

西塚 至氏
墨田区保健衛生担当部長

子どもを産んで育てたいまち、健康に暮らせるまちを目指して、地域特性と健診データの分析をしています。すみだ食育goodネットは、様々な立場の人と人をつなぎ、すべての区民の食と健康を考えた食環境づくりに取り組む団体で、私はその理念に賛同します。コロナ禍に対応した新しい社会での食育に、共にトライアルしていきましょう。

新理事長　佐伯 信郎氏に迫る

区内で2店のパン屋を経営する佐伯信郎氏。なぜ、goodネットへの参加を決めたのか？理事長就任を決断したのは、なぜなのか？佐伯氏に、直接話を聞いた。

佐伯氏がgoodネットへの参加を決意したのは2012年のことだ。「食育活動に興味があったのではなく、単に『下心』からです。食育活動に参加すれば、区の保健衛生関係の方とつながるはず。仕事を進める上で有利かもしれないと考えたんです」と佐伯氏は明かす。

2012年は東京スカイツリー®開業の年。この年に行われた「すみだ観光まちびらき」のイベントに参加することになったgoodネットは「すみだ焼き」と名付けられた商品の販売を決めた。しかし試作を重ねたものの、販売できるレベルのものができず、佐伯氏に相談したのだ。

「すみだ焼きは人形焼きのようなお菓子。『私はパン屋なので専門外ですよ』と伝えたのですが『ぜひ佐伯さんにお願いします』となって、相談に乗るだけでなく、実際につくるまでを担当することになりました」

佐伯氏にとっても初めての体験。何度も試作を重ね、なんとか商品を完成させた。

「イベント当日、やっと完成した商品を車で搬入したんです。到着を待ちわびていたgoodネットの方が商品を見て『わぁーすごい！ありがとうございます』と笑顔で言ってくれて、私まで晴れ晴れとした気持ちになりました」。この体験がきっかけとなり、佐伯氏はgoodネットへ徐々に関わることになったのだ。

完成したばかりの「すみだ焼き」を自ら搬入する佐伯氏

「邪（よこしま）」だけではなく「善」もあることに気づいた！

goodネットに参加した佐伯氏は、積極的に活動を開始した。プランターを使って野菜を育てる「すみだ農園」の収穫祭では、店で焼いたパンを提供。さらに子どもたちの前に立ち、パンづくりについて語った。

「子どもたちが、真剣なまなざしで話を聞いてくれる。普段の仕事では味わえない喜びがありました」と佐伯氏は笑顔で振り返る。

さらに「人材育成プログラム」のワークショップの発表会では、佐伯氏は多くの人の前で「私は、邪な気持ちをもった商売人でした。でも、goodネットのみなさんに求められて職人として関わるうち、みなさんに喜んでもらうことができた。自分の中には邪だけでなく、善い心もあることに、気づくことができました」と本音を語った。

その後、墨田区の食育活動は全国的な評価を受け、2015年には「第10回食育推進全国大会inすみだ2015」を区内で開催。佐伯氏は「地域イベント部会長」として、区内各所で開催されるイベントの準備・運営にあたった。

「経営者として、リーダーシップやマネジメント力にそれなりに自信があったのですが、実際はうまくまとめられなかった。ほかにも、官民の間には越えるべき壁があると実感しました」と語る佐伯氏は、大会終了後の会議で「今後は、官民の壁を越えて協力する必要がある」と発言。自身の中で、食育活動により深く関わる決意が固まった瞬間だった。

多くの人の前で「活動を通し自分の中に善い心もあることに気づいた」と語った

目指すは、笑顔で活動できる環境づくり

佐伯氏は、2014年にgoodネットの副理事長に就任。そして今年、前理事長の木口氏の後任として、新理事長になることを決意した。

「ありがたいことに、昨年から『ぜひ新理事長に』というお話をいただいていました。でも、私はパン屋の店主なので表舞台には立ちたくない。ずっとお断りしていたんです」と語る佐伯氏は、固辞の背景には別の理由もあると明かす。

「今年で50歳になりました。50代は人生のラストスパートにあたる大事な時期。これからの10年、仕事に集中したい気持ちもありました」

それにも関わらず理事長就任を決意したのはなぜか？

「goodネットは10周年を迎え、活動の幅が広がると同時に、官民協働の活動が難しくなっています。正直、『10周年の節目で解散したら』と考えたこともあります。でも、これまでの活動を通して数多くのつながりが生まれた。それを失うのは、もったいないと思ったんです」

2016年開催のワークショップの発表会。着ぐるみ着用で先頭に立ち盛り上げた

佐伯氏は、新たな方針『①食育で「しくみづくり」、②食育で地域の「拠点づくり」、③「未来プロジェクト」へのあゆみ』を掲げ、“すみだらしい食育”を笑顔で育む環境づくりを目指し、全力で取り組みたいと語る。

安心安全な街づくりのためにも食育の力を借りたい！

山田 昇氏
墨田区商店街連合会会長
株式会社山七食品代表取締役社長

佐伯さんとは、以前から面識があります。行動力と発想力がある方で、よき相談相手としてお付き合いをさせていただいています。
私は、安心安全な街づくりのために商店街が果たす役割は大きいと思っています。食の安心安全を実現する上で「食育」という切り口は重要です。今後は、佐伯さんからアドバイスをもらいながら、力を合わせて「ワクワク・ドキドキする街」をつくっていきたいですね。

新たなすみだ食育goodネットに期待すること

三代目にあたる佐伯理事長のもと、新たにスタートを切るgoodネット。初代理事長の中島氏と二代目理事長の木口氏に、新たなgoodネットに期待する想いを聞きました。

初代理事長 中島マサ氏

災害時の食支援をさらに推進してほしい

goodネットの活躍が「第10回食育推進全国大会inすみだ2015」につながり、全国に「すみだの食育」を広めることができ、これまでの活動は「食育の芽」で発信してきました。地産地消ができないすみだでは、今後、多発する災害への食支援の取組、小売店、コンビニ、スーパーマーケット等とどう協力し、支援できるかが課題です。今回の総会で商業人の佐伯さんが新理事長に就任され、大いに期待しています。佐伯さんは副理事長としての実績もあり、会員のみなさまのご協力をいただければ、新たな道が拓けると思います。

新たなつながりから「すみだ愛」をカタチに

私は、この４年間、理事長の大役をいただき、多くの方々と巡り合うことができ、その偶然が必然へとつながっていくことを実感してきました。初代の中島理事長が「このつながりこそが災害時へもつながる」と話されたことを思い出します。今年は、自然災害に加え、新型コロナウイルス感染による様々な問題が生じています。goodネットもまた新たなつながりを模索されていくと思います。その中で「すみだ愛」にあふれる佐伯新理事長へバトンタッチできることを大変頼もしく、嬉しく思い、ご活躍を楽しみにしています。

二代目理事長 木口圭子氏

すみだ食育goodネット 新たに7団体が会員に

「すみだらしい食育文化」を育むまちづくりを目指すgoodネット。区民、地域団体、NPO、事業者、企業、大学、区の関係者が参加しています。今年度は、7団体が新たに仲間に加わりました。詳しくはホームページをご覧ください。

- 株式会社サンコー
- 電気湯
- 東京東信用金庫
- 株式会社藤江
- フレンドリープラザ 江東橋児童館
- フレンドリープラザ 外手児童館
- フレンドリープラザ 文花児童館

（50音順）

すみだ農園　コロナ禍でも、墨田児童会館で活動を継続！

今年はトマトのほかにも、枝豆（写真左）やバジル（写真右）も植えた

野菜を育て、収穫後にみんなで食べ、コミュニケーションを深めたい。そんな想いからスタートした「すみだ農園」。9年目を迎えた今年、コロナ禍の中でもあえて活動を始めたのは「児童館の入り口に野菜があれば、目にした人が元気になること。そして、近隣とのふれあいのきっかけになるから」と八重田裕一朗館長は話します。

墨田児童会館を利用する子どもたちは、日々苗に水やりをして、成長した野菜に名前をつけたり、においをかいだり、触ったりして育てる楽しさを味わっていました。

児童会館のスタッフにとっても、コロナ禍の非日常の中で、トマトが植えてある現実は救いになったそうです。「この活動が、子どもたちの生きる力や将来の夢を育てる一助になれば」というスタッフの言葉に、活動の意義を再確認しました。

すみだ農園で育った将来の夢!

9年前、すみだ農園が産声を上げた年、当時小学生だったAさんは、活動に参加しました。

それ以来、農園でトマトを育てる経験から、農業に興味をもったAさんは農業系の高校に進学。現在、高校3年生になったAさんの将来の夢は、農業や食に関わる仕事に就くことだといいます。

すみだ農園は、地域のつながりの中で、活動に参加する子どもたちの夢も育む取組でもあるのです。

枯れた苗を片づけるAさん。ボランティアとして児童会館のイベントをサポートしている

goodネットからのお知らせ

佐伯新理事長の新たな方針は、ホームページに掲載されています。

現在、新型コロナウイルス感染拡大防止により、予定されたイベントが中止等になっております。ご理解いただきますようお願いいたします。

「食育の芽」に関するご意見ご感想をお寄せください。

発行元　すみだ食育goodネット
住所：131-0044 東京都墨田区文花1-32-1-101　TEL：03-5631-7035
http://すみだ食育goodネット.com/

編集・制作・撮影　五木田 勉
レイアウト　五木田 勉